

## パートナーとの死別後 1 年は心房細動リスクが高くなる

強いストレスにより、心筋梗塞のような急性心臓血管病のリスクが高くなるのがこれまで報告されている。しかし、このことが心房細動にもいえるのかは知られていない。そこで本研究では、大規模な一般集団を対象とした症例対照研究を実施し、パートナーとの死別と心房細動の発症リスクについて検討した。

デンマークの保健登録から 1995~2014 年に病院において心房細動と診断された患者 88,612 例と、年齢と性別をマッチさせた健康な人 886,120 例を抽出した。観察期間中に、心房細動群で 17,478 例 (19.72%)、対照群で 168,940 例 (19.07%) がパートナーと死別した。心房細動の発症リスクは死別後 8~14 日後に最も高かった (オッズ比 1.90) が、その後は徐々に低下し、死別 1 年後には死別していない群と同程度のリスクとなった。全体では、死別後 30 日以内に心房細動を発症するリスクは死別群で 41%上昇し (オッズ比 1.41)、なかでも 60 歳未満の人で最もリスクが高かった (オッズ比 2.34)。また、基礎疾患や年齢から死亡する可能性を予測したところ、パートナーが死亡 1 ヶ月前には健康で、死が予想外であった場合には心房細動の発症リスクが 57%上昇した (オッズ比 1.57)。

したがって、パートナーと死別した人では、その後 1 年間、心房細動の発症リスクが高くなることが明らかとなった。さらにパートナーが生来健康で、死が予想外であると、さらにリスクは高くなることが示された。

出典 : Open Heart. 2016; 3: e000367